

# もう一度読みたい教科書に載った名作リスト

教科書に載ったことのある懐かしい名作や詩、定番の物語。図書館にある本で珠玉の作品たちを読み直してみませんか。

荒尾市立図書館ブックリスト No.51  
「教科書に載った名作」 2026.5月

No	
1	<p><b>おおきなかぶ</b></p>  <p>大きな大きなかぶを抜くために、おじいさんやおばあさん、孫が力を合わせます。それでも抜けないので人だけでなく、犬や猫やネズミもやってきます。繰り返しの展開が楽しいロシアに伝わる民話。</p> <p>①トルストイ/内田莉莎子 再話 ②福音館書店 ③E9 トル ④1980 ⑤20037466</p>
2	<p><b>番ねずみのヤカちゃん</b></p>  <p>ドドさん夫婦の家にこっそりと住む、ねずみの家族。4匹の子ねずみの中でとても声が大きい子は「やかまじやのヤカちゃん」とよばれていました。ある事件がきっかけでヤカちゃんは「番ねずみ」と呼ばれるようになります。</p> <p>①ウィルバー/松岡 享子 ②福音館書店 ③K933 ウィ ④1992 ⑤20046902</p>
3	<p><b>あのときすきになったよ</b></p>  <p>嫌いだな、と思っていた人を好きになったり、仲良くなったり…そんなことが誰にでもあるはず。心の変化が人との距離感を変えることに気付かせてくれる作品です。</p> <p>①薫 くみこ ②教育画劇 ③E9 クン ④1998 ⑤20028215</p>
4	<p><b>スーホの白い馬</b></p>  <p>モンゴルの遊牧民スーホとその馬のものごと。スーホが育てた大切な馬は、死後スーホに楽器を作るように伝えます。それが馬頭琴の由来となりました。</p> <p>①大塚 勇三 再話 ②福音館書店 ③E9 オオ ④1967 ⑤20050961</p>
5	<p><b>ふゆめがっしょうだん</b></p>  <p>春を待ちわびる冬の木からはいろんな顔をした「ふゆめ」が顔を覗かせます。写真と長新太による文が調和し不思議なものごとを感じさせる本。</p> <p>①富成 忠夫・茂木 透/写真 ②福音館書店 ③E4 チヨ ④1990 ⑤20043562</p>

No	
11	<p><b>さんねん峠</b></p>  <p>転んでしまったら3年しか生きられないという言い伝えがある「さんねん峠」。ある日おじいさんが転んでしまい、病の床につくのですが、ある若者から全く違う言い伝えを聞きます。おじいさんはまたさんねん峠を訪ねるのですが…。</p> <p>①李 錦玉 ②岩崎書店 ③E9 リ ④1981 ⑤20055292</p>
12	<p><b>モチモチの木</b></p>  <p>「モチモチの木」はトチノキのこと。怖がりの豆太ですが、倒れたじさまのために、必死でこわい夜の峠をかけおります。思いやりの心が胸をうつ名作絵本。</p> <p>①斎藤 隆介 ②岩崎書店 ③E9 サイ ④1971 ⑤20010439</p>
13	<p><b>赤い蠟燭と人魚</b></p>  <p>おじいさんとおばあさんが拾った子どもは胴から下が魚の形をした人魚でした。大きくなると誰から習ったわけでもないのに赤い絵の具で、おじいさんの作った白い蠟燭に上手に絵を描きます。それはふしぎな力と美しさがこもっていました…。</p> <p>①小川 未明 ②童心社 ③913.6 オカ ④1980 ⑤10517128</p>
14	<p><b>キャベツくん</b></p>  <p>お腹がすいたブタヤマさんはキャベツくんを食べようとしますが、「僕を食べるとキャベツになるよ」「ブキャ!」。会話のやりとりと不思議な展開が子どもに人気の作品です。他シリーズ作品もおすすめ。</p> <p>①長 新太 ②文研出版 ③E9 チヨ ④2002 ⑤20022795</p>
15	<p><b>ほほえみ には ほほえみ (しかられた神さま)</b></p>  <p>「水の神さまは いくら神さまでも 人間からしかられたんだって」アイヌの神さまの言い伝えを美しい詩にのせた川崎洋の詩集。「しかられた神さま」を収録しています。</p> <p>①川崎 洋 ②童話屋 ③911.5 カワ ④1998 ⑤10032438</p>

6		<p>ふたりはともだち</p> <p>かえるくんは泳ぐのがはやくて、がまくんは泳ぐのが遅くて…でも二人はとっても仲良し。なにげない二人のかけあいや日常が心を豊かにしてくれそうなものがたりがらつ入っています。</p> <p>①アーノルド・ローベル ②文化出版局 ③E9 ロハ ④1972 ⑤20037954</p>
7		<p>ともだちや</p> <p>キツネが思いついたのは「ともだちや」という商売。1時間100円でキツネが誰かのともだちになるのです。「さびしいひとはいませんか？」と声をかけるキツネが最後に気付いたのは…?</p> <p>①内田 麟太郎 ②偕成社 ③E9 ウチ ④1998 ⑤20028447</p>
8		<p>ちいちゃんのかげおくり</p> <p>「かげおくり」という遊びを教えてもらったちいちゃん。4人の家族写真を空にうつした次の日、お父さんは白いたすきをかけて戦争へと旅立ちました。何気ない平和な日々が失われる悲しみを伝えるものがたり。</p> <p>①あまん きみこ ②あかね書房 ③E9 アマ ④1982 ⑤10521355</p>
9		<p>夕日がせなかをおしてくる (しのえほん4)</p> <p>夕日が背中を押してくるってどんな情景? さよならと言っているのは誰? 声に出して読んでみたいことがながらが阪田寛夫の名詩です。</p> <p>①阪田 寛夫 ②国土社 ③E9 サカ ④1983 ⑤2028555</p>
10		<p>手ぶくろをかいに</p> <p>「母ちゃん、こんな寒い夜は、森の子狐は寒い寒いってないでしようね」。間違っ狐のままの手を人間に出してしまった子ぎつねですが、ちゃんと手袋を買うことができました。心温まるやさしい童話。</p> <p>①新美 南吉 ②あすなろ書房 ③E9 ニイ ④2018 ⑤20045260</p>

16		<p>精霊の守り人</p> <p>子どもだけでなく大人も夢中にさせた人気の異世界ファンタジー小説。短槍使いのバルサが助けた皇子に水の精霊の卵が宿り…。壮大な世界観は圧巻。他シリーズも刊行されています。</p> <p>①上橋 菜穂子 ②偕成社 ③K913 ウエ ④1996 ⑤20043237</p>
17		<p>おじいちゃんの口笛</p> <p>「おれもおじいちゃんがほしいな」2人の少年はおじいちゃんをみつけに老人ホームに出かけます。身寄りのないニルスさんという老人と少年たちとの交流が始まりました…。</p> <p>①ウルフ・スタルク ②ほるぷ出版 ③E9 スタ ④1995 ⑤20037583</p>
18		<p>風の又三郎</p> <p>北海道から転校生がやってきました。その子の名前は「高田三郎」。三郎が運動場を歩くと、風がざっと吹き荒れます。不思議な雰囲気漂わせる転校生にみんな興味津々です。</p> <p>①宮沢 賢治 ②偕成社 ③K913 ミヤ ④2007 ⑤20024441</p>
19		<p>山椒魚 しびれ池のカモ (山椒魚)</p> <p>2年の間に成長した山椒魚は頭がつかえて岩から出られなくなってしまいます。絶望的な状況ながら何かユーモアを感じさせる井伏鱒二の文章が見事。「今でもべつにお前のことをおこつてはいないんだ」。最後のことは印象的な短篇です。</p> <p>①井伏 鱒二 ②岩波書店 ③K913 イフ ④2000 ⑤20024555</p>
20		<p>月夜のみみずく</p> <p>静かな森。みみずくをさがしに少女はお父さんと出かけます。「みみずくにあうには勇気だっているのよね」。雪の積もる冷たい空気感と美しく紡がれる詩のような文章にぜひ触れてみて下さい。</p> <p>①ヨーレン, ジェイン ②偕成社 ③E9 ヨレ ④1989 ⑤2008614</p>